

図 31-A

母体血清マーカー検査後の主な説明担当者
生データ

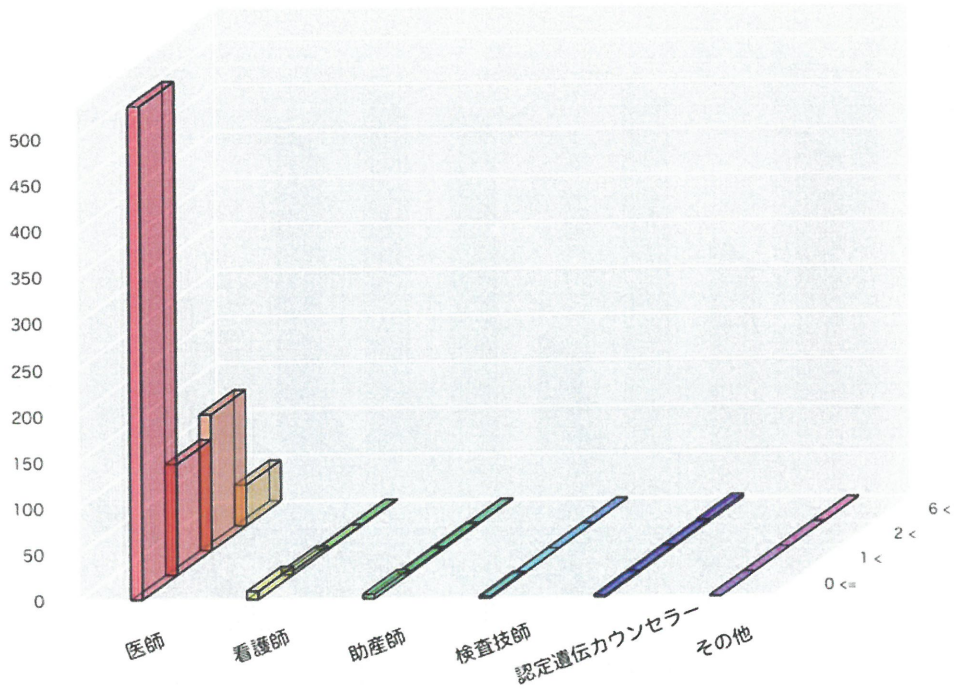


図 31-B

母体血清マーカー検査後の主な説明担当者
横向きに和が1

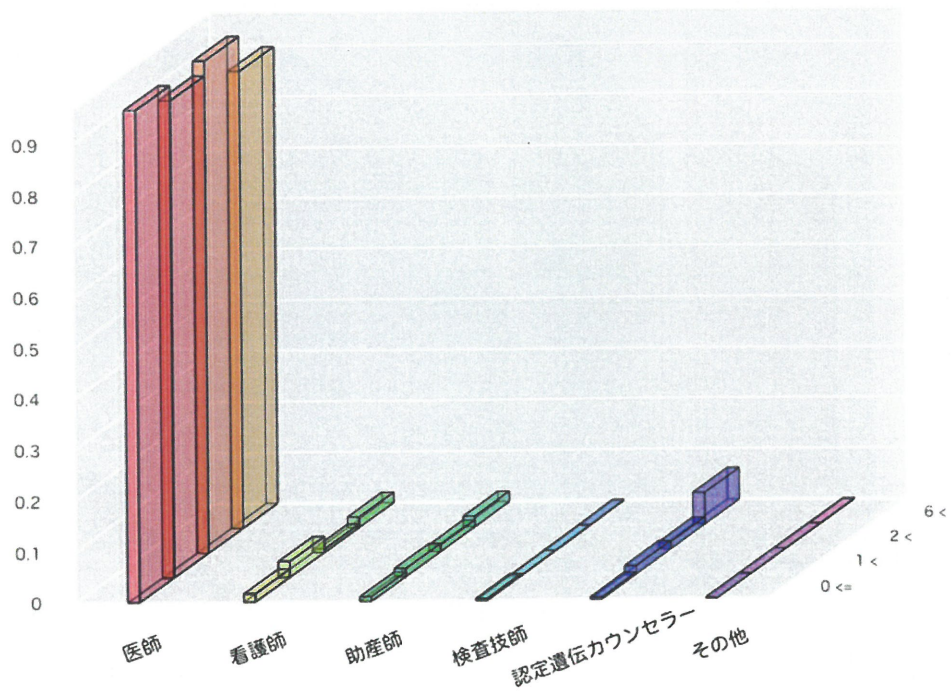


図 32-A

スクリーニング陽性だった場合の説明時間
生データ

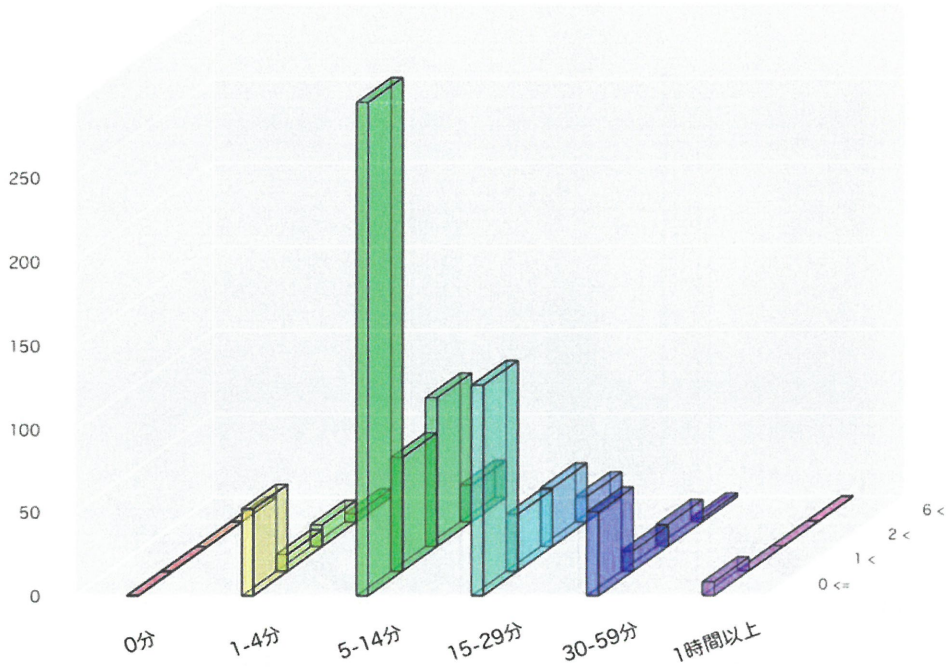


図 32-B

スクリーニング陽性だった場合の説明時間
横向きに和が1

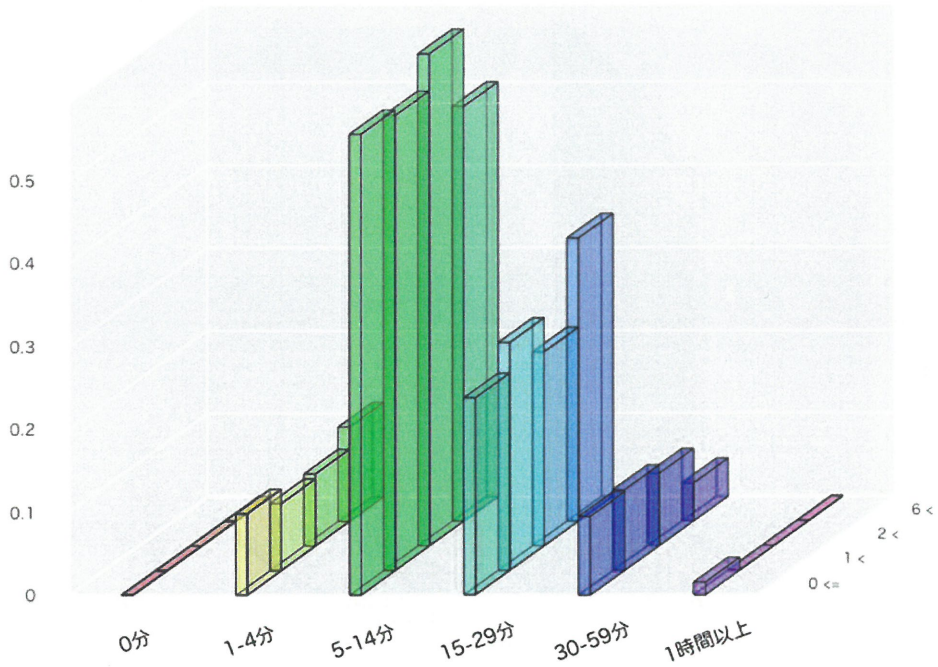


図 33-A

スクリーニング陰性だった場合の説明時間
生データ

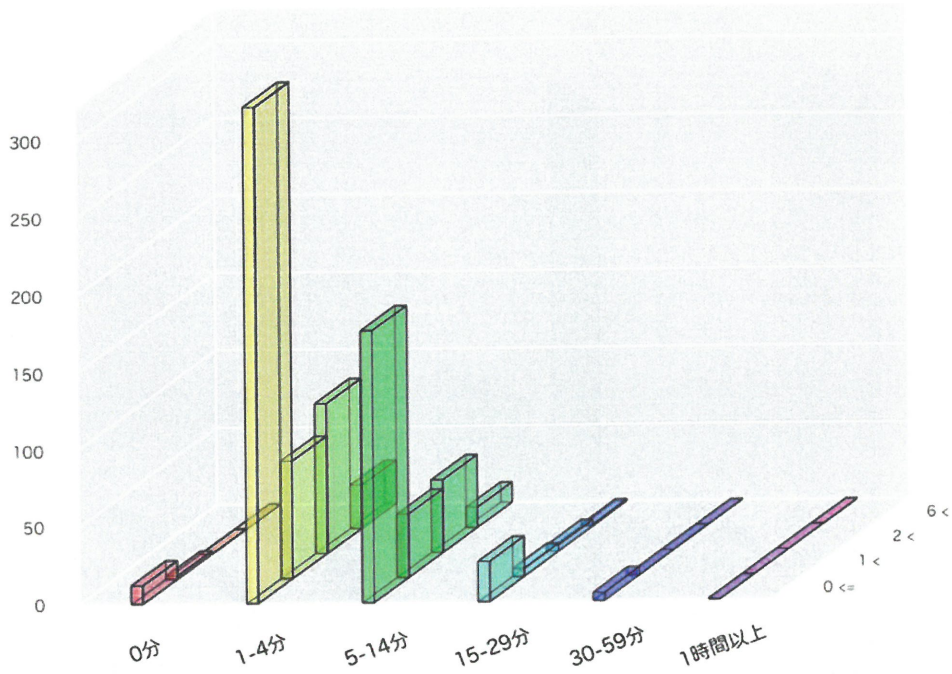


図 33-B

スクリーニング陰性だった場合の説明時間
横向きに和が1

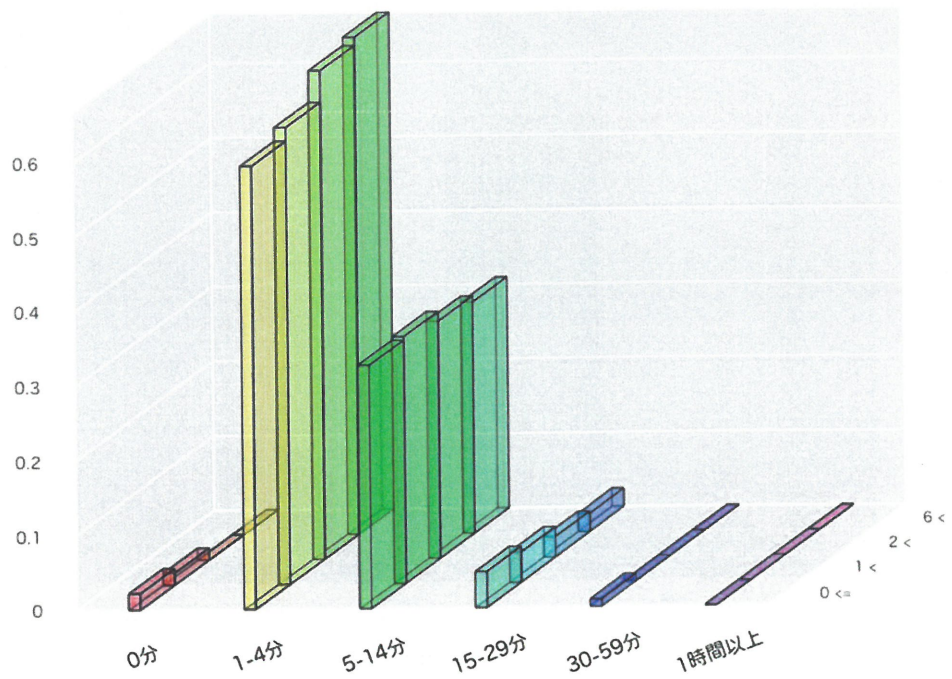


図 34-A

母体血清マーカー検査結果の説明に苦慮した場合の対応
生データ

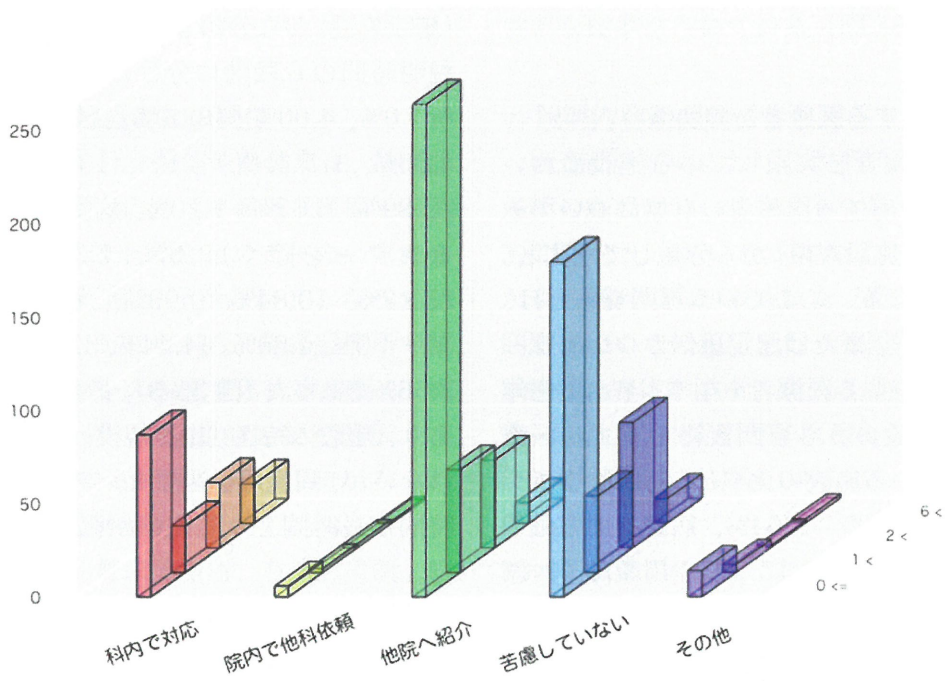
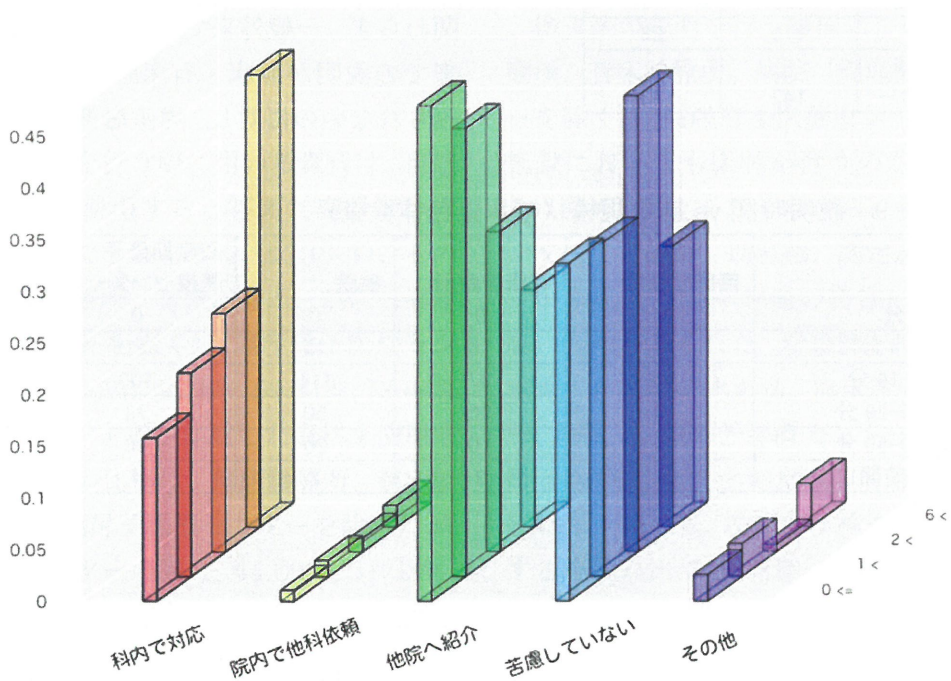


図 34-B

母体血清マーカー検査結果の説明に苦慮した場合の対応
横向きに和が1



(3) 羊水染色体検査の遺伝カウンセリングを 中心にした診療実態

a 施設の特⺏性（施設規模）の違いからみた診 療の実態

i 専門資格を有する医療者との関係

羊水染色体検査を実施している施設において、専門資格を有する医療者の有無についてその施設の特⺏性（施設規模）から分類して示すと、表8のようになる。ここでいう専門資格とは、臨床遺伝専門医、または認定遺伝カウンセラーのいずれかを有する医療者を指す。羊水染色体検査を行う施設のうち専門資格を有する医療者が在籍している施設の比率は、無床診療所：4.00%、有床診療所：9.64%、病院（周産母子医療センターを除く）：13.79%、周産母子医療センター：36.89%であった。

表8 施設規模 vs 資格の有無
（羊水染色体検査）

	専門資格 なし	専門資格 あり
無床診療所	24	1
有床診療所	150	16
病院	175	28
周産期母子 医療センター	142	83

ii 検査前の説明時間との関係

検査前の検査の説明に要する時間を、0分、1-4分、5-14分、15-29分、30-59分、1時間以上の6段階に分けて、その分布と施設の特⺏性（施設規模）から分類して示す（表9、図35-A）。説明時間の6段階に分けた比率は、無床診療所：0%、4.00%、48.00%、24.00%、20.00%、4.00%、有床診療所：0%、10.84%、58.43%、22.89%、6.02%、1.20%、病院（周産母子医療センターを除く）：0%、7.39%、57.64%、25.12%、10.84%、0.99%、周産母子医療センター：0%、4.89%、44.44%、32.44%、15.11%、3.56%であった（図35-B）。最頻値は5-14分であり、施設の特⺏性（施設規模）による差はみられないが、周産母子医療センターにおいて説明時間が長時間となる比率が高い傾向がみられた。

iii 診療枠との関係

検査前の説明を行う診療枠を、一般外来、専門外来、入院、その他の4群に分け、施設の特⺏性（施設規模）により分類して3次元グラフに表示した（図36-A）。施設の特⺏性（施設規模）に関わらず、一般外来での説明が多いが、専門外来での説明が無床・有床診療所ではほとんどみられないのに対し、周産母子医療センターで

表9 説明時間 vs 施設規模（羊水染色体検査）

	無床診療所	有床診療所	病院	周産期母子 医療センター
0分	0	0	0	0
1-4分	1	18	15	11
5-14分	12	97	116	100
15-29分	6	36	50	73
30-59分	5	10	20	36
1時間以上	1	2	2	4

はやや多くみられる。専門外来において説明がなされている比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターにおいて、それぞれ16.00%、4.82%、8.87%、26.22%であった（図36-B）。

iv 検査前の説明担当者との関係

検査前の説明を行う職種については、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターのいずれの施設においても医師が行うのが主となっている（図37-A）。しかしながら、無床診療所で認定遺伝カウンセラーの参画する比率が高く、周産母子医療センターで助産師と認定遺伝カウンセラーの参画する比率が高い傾向がみられた（図37-B）。看護師が検査前の説明に参画する施設の比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、4.00%、3.01%、2.46%、1.78%、助産師が検査前の説明に参画する施設の比率は、同様に、0%、1.20%、1.48%、4.00%、認定遺伝カウンセラーが検査前の説明に参画する施設の比率は、同様に、8.00%、1.81%、1.48%、5.78%であった。

v 説明資料との関係

検査前の説明を行う際に用いる資料は、自施設独自のものを使用すると答えた施設がいずれの規模の施設でも最も多く（図38-A）、その比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、52.00%、39.76%、59.11%、72.44%であった。一方、企業が作成した資料を使用すると答えた施設の比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、44.00%、31.33%、19.70%、12.89%であった。また、資料を使用しないと答えた施設の比率は、無床診療所、有

床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、12.00%、27.71%、24.14%、15.11%であり、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）で比較的大きな比率を占めている（図38-B）。

vi 説明内容との関係

検査前の説明における説明内容は、いずれの規模の施設においても、羊水染色体検査が倫理的問題を含んでいる点についての説明の頻度がやや低い傾向がみられた（図39-A）。倫理的問題についての説明を行う施設の比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、68.00%、49.40%、64.04%、65.33%であり、有床診療所において特に低いことが示された（図39-B）。また、本検査で診断しうる疾患についての説明は、施設全体の93.70%の施設でなされているものの、妊婦自身が心配している疾患についての説明がなされるのは70.60%の施設にとどまり、十分とは言えなかった。

vii 検査後の説明担当者との関係

検査後の説明を行う職種については、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターのいずれの施設においても医師が行うのが主となっている（図40-A）。しかしながら、周産母子医療センターで看護師、助産師、認定遺伝カウンセラーが参画する比率が他の特性の施設に比して高い傾向がみられた。看護師が検査後の説明に参画する施設の比率は、無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）、周産母子医療センターの順に、4.00%、1.81%、1.48%、4.00%、助産師が検査後の説明に参画する施設の比率は、同様に、0%、1.20%、0.49%、3.11%、認定遺伝カウンセラーが検査後の説明に参画する施設の比率は、同様に、4.00%、

1.20%、1.48%、4.44%であった（図 40-B）。

viii 検査後の説明時間との関係

検査後の結果の説明に要する時間を、0分、1-4分、5-14分、15-29分、30-59分、1時間以上の6段階に分けて、その分布と施設の特性（施設規模）から分類して検討した。

検査結果が異常核型であった場合の説明時間は、いずれの特性（規模）の施設でも、最頻値は15-29分であった（図 41-A）。説明時間を6段階に分けた比率は0分から順に、無床診療所：0%、4.00%、24.00%、36.00%、24.00%、8.00%、有床診療所：0.60%、5.42%、38.55%、38.55%、9.64%、3.61%、病院（周産母子医療センターを除く）：0%、2.46%、33.50%、36.45%、21.18%、4.43%、周産母子医療センター：0%、1.33%、25.78%、32.89%、29.78%、13.34%であった（図 41-B）。施設の特性（施設規模）による差はみられないが、周産母子医療センターにおいて説明時間が長時間となる比率が高い傾向がみられた。

検査結果が正常核型であった場合の説明時間は、いずれの特性（規模）の施設でも、最頻値は1-4分であった（図 42-A）。説明時間を6段階に分けた比率は0分から順に、無床診療所：8.00%、48.00%、36.00%、4.00%、4.00%、0%、有床診療所：2.41%、71.08%、22.89%、

1.20%、1.20%、0%、病院（周産母子医療センターを除く）：1.97%、64.04%、29.56%、4.43%、0.49%、0%、周産母子医療センター：1.33%、60.44%、28.89%、7.11%、2.22%、0%であった（図 42-B）。施設の特性（施設規模）による差はみられないが、周産母子医療センターにおいて説明時間が長時間となる比率が高い傾向がみられた。

ix 説明に苦慮した場合の対応との関係

説明に苦慮した場合の対応について、自科内で対応、施設内の他科で対応、他施設に依頼する、苦慮することはない、その他の5項目に分類して解析した（図 43-A）。それぞれの施設の特性（規模）におけるこれら5項目の比率は、無床診療所：16.00%、0%、56.00%、32.00%、0%、有床診療所：12.05%、1.20%、53.01%、31.33%、3.01%、病院（周産母子医療センターを除く）：26.11%、3.94%、50.74%、21.67%、5.42%、周産母子医療センター：38.67%、13.78%、25.78%、21.78%、4.00%であった（図 43-B）。無床診療所、有床診療所、病院（周産母子医療センターを除く）で他施設への依頼が多かったのに対し、周産母子医療センターでは、自科内での対応および施設内の他科で対応の比率が高くなり、周産母子医療センターでは、自科内での対応の比率が最も高い。

図 35-A

羊水染色体検査前の説明時間
生データ

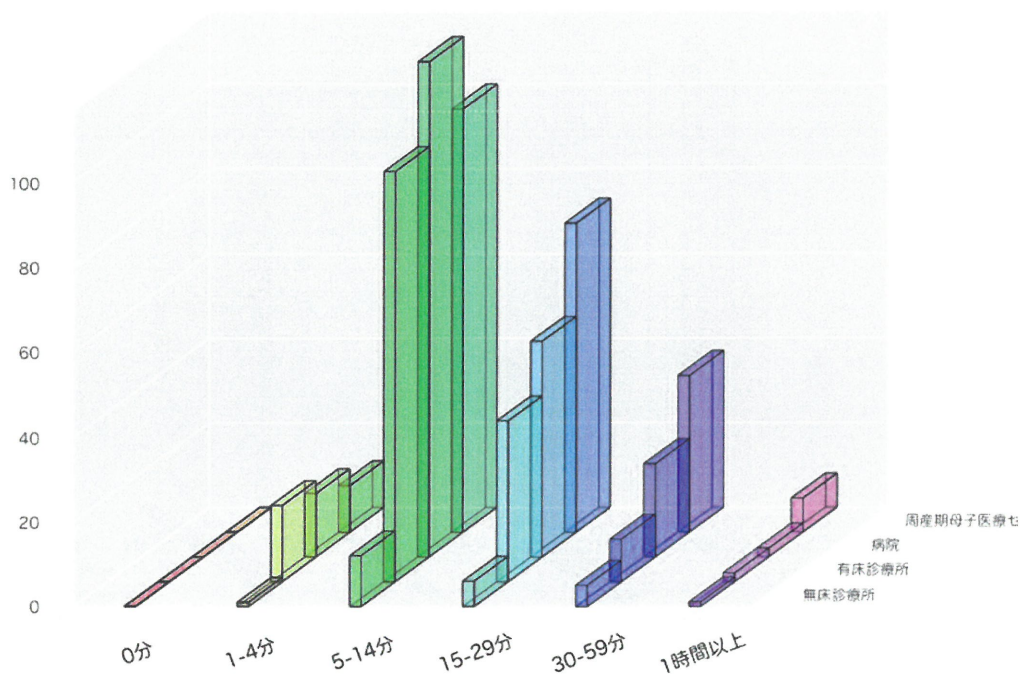


図 35-B

羊水染色体検査前の説明時間
横向きに和が1

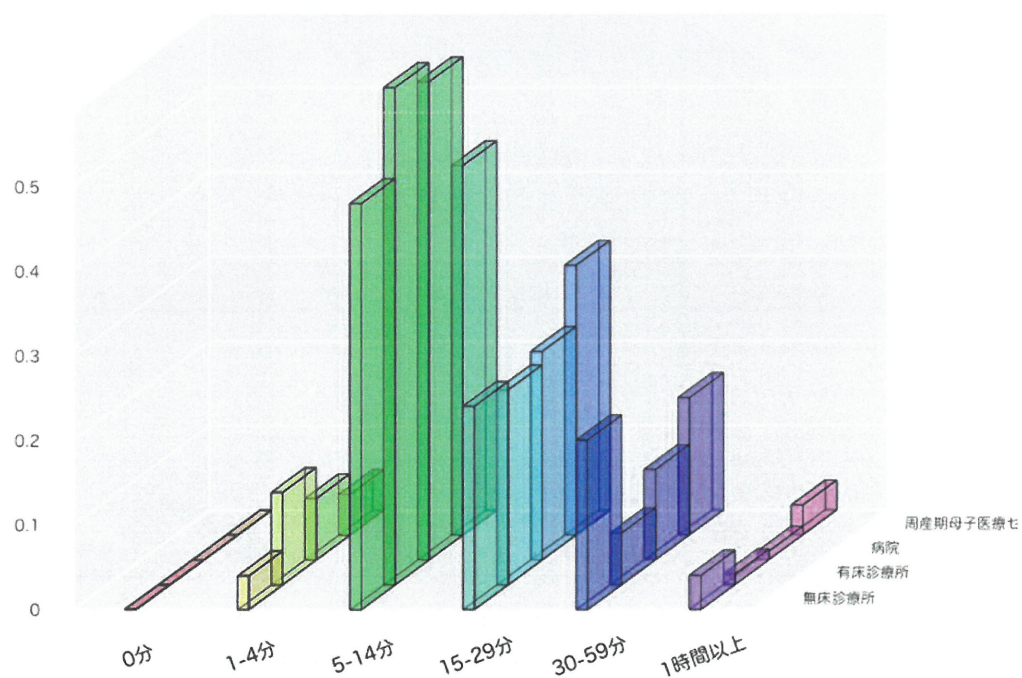


図 36-A

羊水染色体検査の説明を行なっている主な診療科
生データ

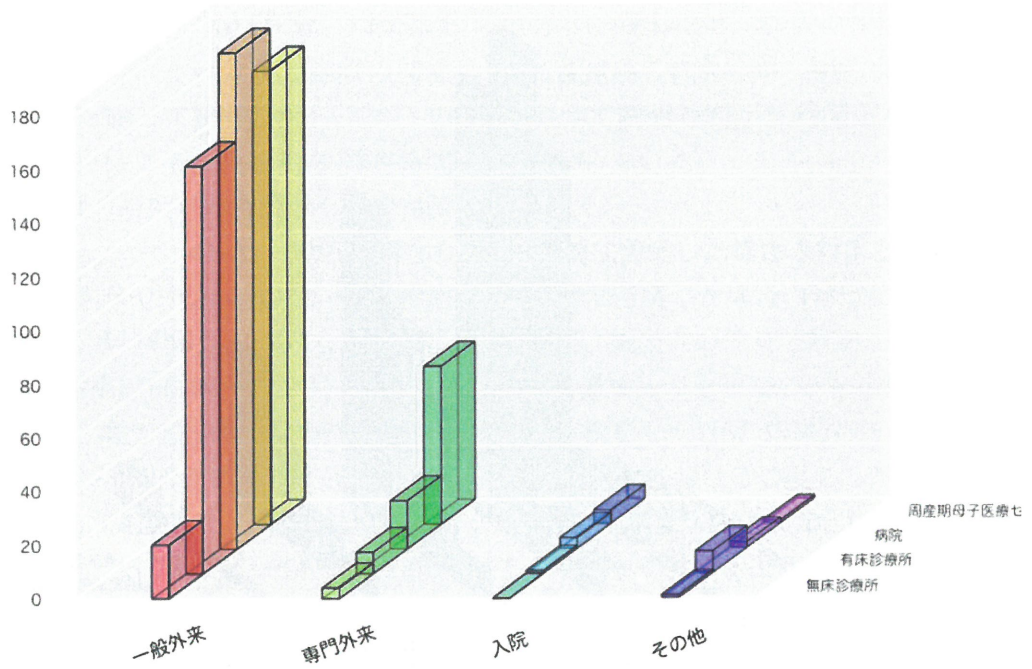


図 36-B

羊水染色体検査の説明を行なっている主な診療科
横向きに和が1

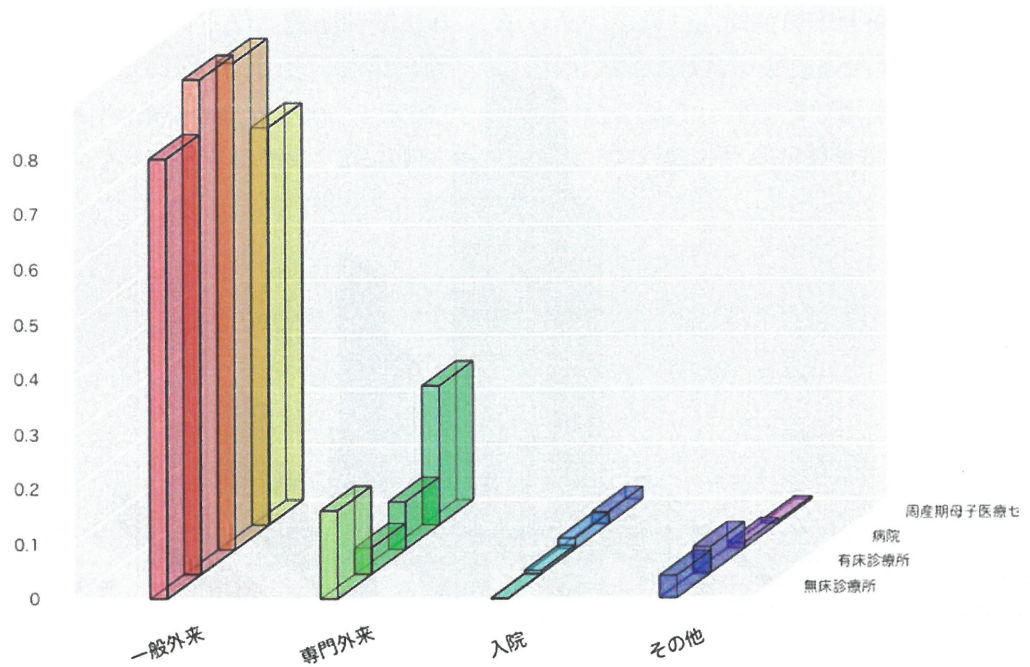


図 37-A

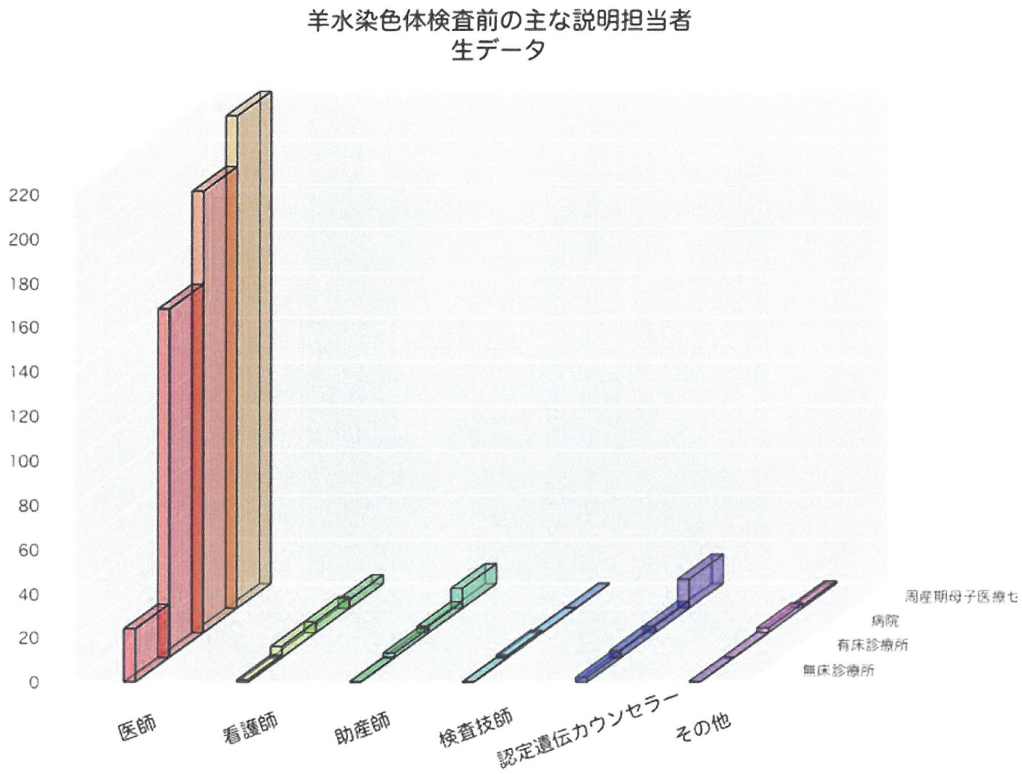


図 37-B

